

第2学年A組 音楽科学習指導案

授業者 柳下 康明

1 題材名 曲想と音楽の構造を理解して、工夫して表現をしよう（器楽・鑑賞）

2 題材について

(1) 生徒の実態から

本学級の生徒は、音楽活動に興味・関心をもち、意欲的に表現・鑑賞の領域の学習活動に取り組んでいる。中でも歌唱では曲想と音楽の構造や歌詞の内容と関わりを考えながら取り組むことができてきている。その一方で、本題材で取り組む器楽表現であるソプラノリコーダーでは、小学校以来に取り組む生徒が主な状況であり、楽器演奏の基礎を確認するところから始めている。このことから小学校での学びの系統性を生かしながら、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などに目を向けさせてきた。本時ではそれらの学びを踏まえうえで、器楽表現においても、思いや意図を明確にしたうえで、より良い音楽表現を目指して試行錯誤させていきたい。

本時の表現分野に関わる内容について学級への質問紙調査を実施した。「知識及び技能」に関する項目については『テクスチュア（旋律の重なり）を理解して歌ったり、演奏したりしている』では「何となく理解している」が37%となっており、テクスチュアについて、思考を深めていく必要がある。また、『音楽の諸要素の働きを理解している』では「わからない」と16%が回答しており、改善の余地がある。『創意工夫を生かした表現をするために必要な技能が身についている（リコーダー）』では45%が「あまり付いていない」と答えており、器楽の技能に関する資質・能力の向上が必要だと感じている。「思考力、判断力、表現力等」に関する項目については『思いや意図を考えることができた』では肯定的な評価が95%となっている。しかし、先ほどの『音楽の諸要素の働きを理解している』の結果から考えると、音楽を形づくっている要素をよりどころにした、思考・判断とは言えず、音楽活動を通してそれらの働きを実感しながら理解し、思いや意図を持ち表現に生かしていくことが必要だと感じている。「学びに向かう力、人間性等」に関する項目については、『主体的に取り組むことができる』では「よくできた」「できた」が97%であり、主体的に取り組む、楽曲のよさに気づくことができている。また、『仲間と協働的に取り組むことができる』でも肯定的が93%であり、音楽のよさを伝え合い、他者からの助言を参考にしながら自己の表現を深めるなど協働的に学習する姿が見られた。また、『好きな題材はどれですか』では、「器楽分野」が43%を占めており、コロナ禍で歌唱の活動に制限がかかる中、充実した取組が見られたと考えられる。

なおA表現(2)器楽の事項ア・イの(ア)・ウの(イ)及び、B鑑賞(1)アの(ア)・イの(ア)に即して進めていく。加えて、[共通事項](1)ア(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころになる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「テクスチュア」、「形式」)を指導する。

(2) 本校の研究内容と本題材の関連について

【手立て1】：「挑戦心を引き出す学習指導の工夫」

すべての領域で知覚したことと、感受したことをプリントに分けて記述させ、線で結ぶことで知覚・感受の関わりについて考えさせている。本来、知覚と感受は一体的な関係と言えるが、それぞれについて考えるうえで、思考の可視化を図り、「思考力、判断力、表現力等」の基盤となる知覚と感受の関わりを常に関わらせて音楽と向き合わせていきたい。また、タブレット端末を用いて録音・録画することで、自分自身の表現を客観的に見ながら、より良い表現へと試行錯誤させていく。これらを通し、個別最適な学びを実現していく。

【手立て2】：「個別最適な学びの工夫」

本題材では、個で考えた思いや意図が生徒間で共有され、また他者の考えに触れることにより個の表現が深まるように指導し、他者の考えを尊重する態度と多様な価値判断に触れる機会としたい。また、生徒同士をつなぎ合うことで、学級全員がねらいに向けて学び「一人残らず学ぶ教室」を創っていきたいと考える。本時においては、ペア学習を中心に学びを進めていく。本教材は重奏であるため、自身の考えた表現を試行錯誤させていく中で、仲間の表現の工夫を取り入れ、自身の表現が深まることを目指したい。「活動あって学びなし」といった授業にならないよう、ねらいを達成するための手段として「学び合い学習」を有効に活用したい。

3 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏をするために必要な奏法・身体の使い方などの技能を身に付ける。 (知識及び技能)

- (2) 旋律，テクスチャ，形式を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい音楽表現を創意工夫するとともに，音楽のよさや美しさを味わって聴く。〈思考力，判断力，表現力等〉
- (3) 旋律，テクスチャ，形式（旋律の重なり方）によって生み出される雰囲気や表情などの変化に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作や鑑賞の学習活動に取り組むとともに，音楽に対する感性を豊かにする。〈学びに向かう力，人間性等〉

4 教材について

(1) 教材および教材選択の理由

- 「カノン」（ソプラノリコーダー） 作曲：M・ハウプトマン
出典：教育芸術社「中学生の器楽」 p.24
 - ・4小節間の短い楽曲であるとともに，音の出しやすい音域と緩やかなリズムで書かれているため，習得が容易である。このことから，ねらいであるテクスチャ（旋律の重なり）の特徴を知覚し，テクスチャが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるきっかけとなる教材である
- 「フーガ短調」作曲：J.S. バッハ
出典：教育芸術社「中学生の音楽2・3上」 p.40~41
 - ・音楽形式がフーガであり，馴染みのある主題が重なり，展開していく構造は，カノンで学んだテクスチャの発展である。よって，旋律が重なっていくおもしろさを味わうことのできる教材である。

5 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	知①「カノン」の曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解している。 (器楽)	思①旋律，テクスチャ，形式を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (器楽)	態音や音楽，音楽文化に親しむことができるよう，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (器楽・鑑賞)
	知②曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 (鑑賞)	思②旋律，テクスチャ，形式を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 (鑑賞)	
	技創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け，器楽で表している。 (器楽)		
1時	知①〈ワークシート1〉		態〈観察〉〈ワークシート1〉
2時	技〈観察・録音提出〉	思①〈ワークシート1〉	
3時	知②〈ワークシート2〉		
4時		思②〈ワークシート1〉	態〈観察〉〈ワークシート2〉

6 題材の指導計画と評価計画(全4時間扱い)

時	◆ねらい ○学習内容 ・主な学習活動	○指導上の留意点☆評価規準と評価方法 ★学校研究とのかかわり【手立て】
〈第1次〉◆曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりを理解する。		
1	○曲想に関心をもち曲の雰囲気を捉える。 ・範奏を聴き，前題材での「かっこう」との違いを話し合う。 ・旋律の特徴を感じ取りながら個人で演奏する。 ○ペアで旋律を重ねて演奏し，カノンのテクスチャを知覚・感受する。 ・旋律が追いかけるように重なる形式を理解しながら演奏する。 ・演奏しながら2小節ごとのテクスチャの特徴をプリントに書く。 ・和声音楽とは異なるルネサンス期のカノン様式について知る。 ・カノンのテクスチャがどのような曲の雰囲気やイメージをもたらすか考え，感受したことをプリントに書き込む。	○題材の流れを確認し見通しをもたせるようにする。 ○旋律の特徴を感じ取らせるようにする。 ★ペア学習で個の感じたことを伝え合いながら， <u>学びを深めさせるようにする。</u> 【手立て1】 ○感じ取った旋律の特徴を整理させるようにする。 ○旋律の重なりを聴きながら演奏させるようにする。 ○演奏を通して，実感を伴って理解をさせるようにする。 ○演奏させながら，テクスチャの特徴を確認しながらプリントに書き込ませるようにする。

	<p>○知覚と感受を結び付け、曲想と音楽の構造の関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知覚と感受をしたことを演奏して確認しながら線で結ばせる。 ・曲想と音楽の構造の関わりを考えながら演奏する。 	<p>☆知①：ワークシート（器楽）</p> <p>★<u>知覚・感受の関わりを線でむすび、視覚化させるようにする。</u>【手立て2】</p> <p>○知覚と感受を分けてプリントに記入させるようにする。</p> <p>○知覚・感受したことを確認して演奏させるようにする。</p> <p>☆態：観察・ワークシート（器楽）</p>
<p>〈第2次〉◆曲のよさをどのように表現するか思いや意図をもって演奏する。</p>		
<p>2 本 時</p>	<p>○曲想と音楽の構造との関わりを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで演奏して旋律、テクスチャ、形式から知覚・感受したことを確認する。変容が実感できるようにタブレットで録音する。 ○曲想と音楽の構造との関わりを手掛かりにしながら、どのように表現するか思いや意図をもつ。 ・どのように演奏するか、プリントの楽譜に記入する。 ・ペアで自分の思いや意図を伝える。参考になるペアの思いや意図は赤ペンでプリントに記入する。 <p>・プリントに書き込んだ思いや意図もとにしなが、ペアでタブレットに録音し、再生したりすることで試行錯誤しながら表現を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に思いをもって演奏するところをプリントに書き込み、全体で合わせて演奏する。 ○次時の学習に興味・関心を持つ。 ・4人班で4声のカノンを演奏し、2声との違いに気づき、学んだことを記述する。 	<p>○線で結び付けた内容を確認させながら、演奏させるようにする。</p> <p>★<u>ICTで録音、聴取させることで、表現を試行錯誤させるようにする。</u>【手立て2】</p> <p>○思いや意図の書き方の型を提示する。</p> <p>○テクスチャの特徴を根拠に思いや意図を持たせるようにする。</p> <p>★<u>ペア学習で個の感じたことを伝え合いながら、学びを深めさせるようにする。</u>【手立て1】</p> <p>○試行錯誤させながら表現したいことが伝わるように演奏させるようにする。</p> <p>☆態：①観察・ワークシート（器楽）</p> <p>○ペアの工夫も参考にさせながら、思考を深めさせるようにする。</p> <p>☆因：活動観察・録音（器楽）</p> <p>○2声と4声の違いを考えさせ、第3次へとつなぐ。</p>
<p>〈第3次〉◆曲想と音楽の構造の関わりを理解する。</p>		
<p>3</p>	<p>○曲に興味関心を持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して聴き、曲想を感じ取る。 <p>・前時までの学習を振り返り、旋律、テクスチャ、形式の特徴をペアで話し合う。</p> <p>○フーガのテクスチャ（旋律の重なり）がどのようになっているかを知覚する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントに声部ごとに主題が何回出てくるか聴き取る。 ○知覚と感受を結び付け、曲想と音楽の構造の関わりを理解する。 ・知覚と感受したことを線で結ぶ。 <p>・知覚・感受したことを確認しながら聴く。</p>	<p>○授業冒頭に曲を流し、生徒の教材との出会いを大切にさせるようにする。</p> <p>○生徒の言葉からテクスチャ（旋律の重なり）の特徴を引き出し、本時のねらいとする。</p> <p>☆知：②観察・ワークシート2（鑑賞）</p> <p>○曲の感じ、雰囲気とどのように結びついていくか考えさせながら主題を聴取させるようにする。</p> <p>○曲想と音楽の諸要素の関わりを考えさせるようにする。</p> <p>○紐づけした知覚・感受したことを確認して聴取させるようにする。</p>
<p>〈第4次〉◆曲想と音楽の構造の関わりを根拠にしなが、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p>		
<p>4</p>	<p>○曲想と音楽の構造の関わりを復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律、テクスチャ、形式の特徴を確認しながら聴く。 <p>・知覚と感受したことをペアで確認する。</p> <p>○フーガの良さを後輩たちに伝える紹介文を書く。</p> <p>・曲想と音楽の構想との関わりを根拠にしなが、音楽の良さを批評する。</p> <p>・ペアで紹介文を伝え合い、音楽のよさ・共通点をまとめる。4人班で、ペアで出た音楽のよさ・共通点を共有する。</p> <p>○フーガのテクスチャの構造を理解しながら、曲を評価し、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを記述する。 	<p>○カノンのテクスチャとの類似点を確認する。</p> <p>○線で紐づけた知覚・感受が正しいか考えさせるようにする。</p> <p>★<u>生徒のタブレットにアップした音源をイヤホンで自分のペースで聴かせる。</u>【手立て2】</p> <p>○音楽を形づくっている要素を根拠し、音楽の良さを考え、記述させるようにする。</p> <p>☆態②：観察・ワークシート</p> <p>○他者の考えに触れ、多様な考えや、自分の気づかなかった音楽の良さを知る。</p> <p>★<u>ペア学習で個の感じたことを伝え合いながら、学びを深めさせる。</u>【手立て1】</p> <p>☆態：観察・ワークシート2</p> <p>○単元のねらいが達成できたか、振り返りをさせるようにする。</p>

7 本時の学習活動（2/4）

(1) 本時の目標

- ・曲想と音楽の構造や曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な器楽の技能を身に付ける。 〈知識及び技能〉
- ・旋律、テクスチャの関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもつ。

〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

	○学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法 ★学校研究とのかかわり【手立て】
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の雰囲気づくりをする。 ・「カノン」を全体で合わせて演奏をする。 ○本時の目標を知る。 ・本時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音楽の授業に切り替えさせる。 ○ユニゾンでの演奏とカノンのテクスチャの違いを考えさせながら演奏させる。 ○プリントにそって本時の流れを確認させる。
課題：曲のよさをどのように表現するか考え、思いや意図をもって演奏しよう		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想と音楽の構造との関わりを確認する。 ・ペアで演奏して知覚・感受したことを確認し、変容が実感できるようにタブレットで録音する。 ○曲想と音楽の構造との関わりを手掛かりにしながら、どのように表現するか思いや意図をもつ。 ・テクスチャの特徴を考えながら、1st に対応するアーティキュレーションをプリントの楽譜に記入する。 ・ペアで自分の思いや意図を伝える。参考になるペアの思いや意図は赤ペンでプリントに記入する。 ・プリントに書き込んだ思いや意図もとにしなが、ペアでタブレットに録音し、再生したりすることで試行錯誤しながら表現を深める。 ・特に思いをもって演奏するところをプリントに書き込み、提出音源を録音する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○線で結び付けた曲想と音楽の構造の内容を確認させながら、演奏させる。 △Cと判断されそうな生徒への働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ・書き方の型を示しながら、知覚・感受を伴った内容を書かせる。 ○個で思いや意図を楽譜に書き込ませる。 ☆旋律、テクスチャの関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように演奏するかについて思いや意図もっている。 (思①観察・ワークシート) ○テクスチャの特徴を考えさせ、旋律の重なり方に視点を持たせる。 ○ペアで自分の思いや意図を表現できるように、試行錯誤させる。 ★ペア学習で個の感じたことを伝え合いながら、学びを深めさせる。 【手立て1】 ○試行錯誤する中でペアの参考になる思いや意図は赤ペンで記入をさせる。 ★ICTで録音、聴取させることで、表現を試行錯誤していく。 【手立て2】 ☆創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 (技①観察・ワークシート)
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○次時の学習に興味・関心を持つ。 ・4人班で4声のカノンを演奏し、2声との違いに気づく。 ・本時を振り返り学んだことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2声と4声の違いを考えさせ、第3次へとつなぐ。 ○何を学んだか記述させ、自分の課題を見つけさせる。

8 備考 在籍生徒数 男子 18名 女子 18名 計 36名